

平成28年度 第2回新宿区子ども・子育て会議 会議要点記録

日時	平成28年10月31日（月）午後2時から午後4時まで
開催場所	新宿区役所地下1階11会議室
出席者 （名簿順）	神長美津子委員、高橋貴志委員、宮崎豊委員、勝川純子委員、前田香織委員、花島治彦委員、青野啓子委員、千葉伸也委員、西内隆昭委員、石渡登志江委員、佐藤光子委員、鶴巻祐子委員
欠席者	小高潤委員、齋藤宏子委員
開催形態	公開（傍聴者1名）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）新規開設の保育施設について （2）待機児童解消に向けた取り組みについて （3）私立保育園の子ども園への移行について 4 その他 5 閉会

1 開会

2 会長挨拶

（会長） この会議も2年目に入り、本日で2回目を迎える。議論を重ねてきて、子ども・子育て会議の目的である子ども・子育てに関わる質と量の確保などの議論をする中で、少しずつ共通理解できてきたと思っている。

今日も3点の項目があるが、率直に意見を交換しあい、専門家の皆様にも知恵を絞っていただき、量と質の確保ということについて検討していきたいと思っている。

3 議事

（1）新規開設の保育施設について

（事務局）資料に基づき説明

（委員A） 先日のニュースで、世田谷区が芦花公園の中に保育園をつくらうとしたら土壌から有害物質が出たとあったが、保育園をつくる時に、他の自治体では土壌調査は事業者側の任意だったように思うが、新宿区では、土壌調査を求めているのか。

（事務局） 世田谷区の芦花公園で、基準値を超えたので、現在、近隣の区民の方、公園利用の方の安全を確保するために、公園自体の利用を中止し、東京都が調査をしているという話は聞いている。新宿区では、事業者側に土壌の調査はお願いしていない。

（委員B） 認証から認可に移行した施設が2つあるが、ほっぺるランド新大久保は、3歳から5歳までを合わせた定員が18人で、認可化した場合、ずっと通うことができなくなるのではないか。

(事務局) 事業者にもそういった課題の認識はある。ただ、認証から認可化するに当たって、まず安定的な保育サービスの提供をしていき、軌道に乗ったところで、定員の拡大などを検討する意向だと聞いている。

ほpperランド新大久保の近隣には他にも保育園があり、そちらでは、3歳、4歳、5歳の受け入れが可能だろうと見込んでいるので、2歳から先に持ち上げられない場合には、区でも他の園に移れるよう支援をしていきたいと考えている。

(委員C) 新規の園を開設していくことはとても大切だと思うが、今回のように、1つの会社があくつも保育園を開設する場合、保育の質の保証、人材の確保ができるのかを少し懸念している。開設する際に、区から事業者に対してお願いをしたり、指導に当たったりしているのか。

いろいろな地域で開設を進める勢力のある会社が質の保証をどう考えているかについて、審議会を含めて区がどのように確認しているかを問うていくべきだと思っている。

(事務局) 1つの事業者が本区だけでなく、他の自治体においていくつも開設し、待機児童解消に寄与していることは存じている。

どのくらいの規模を開設するのか、それに向けてどのような人材確保をしていくのか、どうやって雇用の安定、職員の定着に取り組むのかなど、書類の提出やヒアリング等で、無理なく実施できそうな事業者に対してのみ承認している。

認可権が東京都にある場合でも、区も、免許の写しなどで保育士の資格を確認するなど、事業者に頼り過ぎることなく、提案を受けた時には引き続ききちんと内容を見ていきたいと考えている。

(事務局) 保育士確保について補足させていただくが、10月23日に保育士の就職相談面接会を開催し、今回開設予定の事業者にも参加していただいております、そのような形で区は保育士の採用についても支援を行っている。

(委員D) 新宿は保育園開設がたくさん出てきていいなと思うが、やはり保育士の質に関して、すごく気になることがある。

登降園時に、保育士が保護者に一声かけたりするなど、連携をとることが必要だと思う。家庭での親子の関わり方などが保育園の様子に出たりすると思うので、そうしたことを考慮できる、多角的に見られる保育士の育成をめざし、区と保育園、幼稚園とで連携ができるといいと思う。

開設だけにとどまらず、質を確保していただきたいし、保育園に預けられない、預けていない方達も、区でケアしていただきたい。

母親の立場としてもそういったフォローがあると、子育てで孤立することなく、地域に開けた保育ができると思う。

(委員E) 保育の質をいかに保つか、現状だと、そこまで新宿区としては手が回らないと思うし、そこまで人員を割けるかといったら、多分割けない。また、非常に経験の浅い人が施設長になってしまうような現状になっており、それだけ人手が不足している。

採用イベントとか、苦勞していい人材を確保しても、そもそも人材不足なので、育成の段階までいかないのが現状になっている。採用したら育成するが、これから保育園がどれだけできるかということはもちろんだが、どうやって質を担保するかをこの会議でもっと深く議論すべきと

思っている。

(委員F) 保育の質について考えると、直接的には子どものケアであるが、保護者に対するケアも重要なポイントになってくると思う。子ども達が保育の中で日々成長していることや、子ども同士の様々な出来事をきちっと伝えられるようなコミュニケーション力をつけていかなければいけないと思う。

また、職員間のコミュニケーション、お互いのケアもとても大事なことになると思う。

保育だけではなくて、事務など園には様々な仕事があると思うが、新しく入った先生方には、まず子どものケアにしっかりと向き合ってもらうこと、保護者とも信頼関係をつくれること、仕事の中で助け合いながら、お互いに高め合っていけるような関係が職員同士でもつくれることが非常に大事だと思う。研修などで育てていける部分もあると思うが、時間がどうしても必要になってくる。

私どもの法人が運営する4園でも、人事交流を図りながら、職員の育成を考えていかなければと思うが、子ども達や保護者からすると、先生が異動することも非常に大きな事件で、せっかくできた人間関係や信頼関係が切れてしまうことに非常に大きな不安を持つ保護者もいる。

私達としては、先生達には、保護者や子ども達としっかりと向き合って関係をつくっていけるようにしたいと思う。しかし、民間法人の場合、基本的には運営費の中で賄っていくので、こういう事業展開をするから、5人で済むところを10人採るという訳にはいかない。

民間の事業者のほうで、チャンスだと思えば少々無理をしてもとりにいこうと判断できるかもしれないが、運営費の中で運営している施設としては、なかなか手を挙げにくいと思う。

私達の園でも、産休・育休後に職場復帰を望んでいたが、保育園に入れないので復帰を断念した先生がいた。キャリアパスも求められているが、キャリアパスに乗る以前になかなか定着してくれないこともあり、改善していかなければいけないと思う。

(会長) 園の保育力を向上していく中で、職員同士が刺激し合うような雰囲気の中で向上心が出てくるのだろうと思う。

理想論だが、先生たちが一人前になったと思っても、まだその先に向けて目標を持てるような園運営ができるといいと思う。

(委員C) 人材確保の件については、区と開設に当たって審査する先生方がしっかりと確認すると伺ったので、その点については十分理解したと思う。

今回いろいろな事件があり、保育園の保育だけの問題なのかどうかはわからないが、事件があった時に、新宿区としてどのような形でそれに対応していくのか。また、今後開設する園に対してどのようなメッセージを出しているのかということについてお伺いしたい。

(事務局) 私立園は毎月1回、園長会を開催している。そうした事故が起きた時を1つの契機としながら、事例の共有と注意喚起を行っている。

夏に認定こども園で、秋に認可保育園で死亡事故があり、非常に重いことと受けとめている。その後の検証結果の報告はもう少し先になるので、現段階で園に対して具体的なことは案内できないが、そうした事故が起きていることを踏まえて、皆さんの園にも危機管理体制の確認をお願いしている。

例えば、マニュアルが整備されていても、平日と土曜日で職員体制が違う場合があり、土曜日の体制にも対応できているものになっているのか、園長や主任の間では、考えも比較的共有できていると思うが、それが若手の保育士一人一人に届く必要があり、少しうるさがられるぐらいのメッセージを園長から発していくようお願いもしている。

区の仕組みとして、保育経験のある保育士が定期的に各地域を巡回する指導検査の中で、保育に関しての具体的な助言も行われている。また、事故報告等が上がってきた時には区として助言できることがないのか、十分確認をした上で、職員に指示をしている。

(委員G) 資料を見て、必要な基準面積以上に保育室の面積を確保している園が多いと思った。0歳児、1歳児の必要面積は多分、1人当たり 3.3 平方メートルで計算されていると思うので、20 平方メートル位余裕がある。これだけ余裕があるなら、あと6人ぐらい増やせるのではと思ったが、例えばロッカー、絵本棚等を置くためのスペースとし、必要な面積を超えて確保されているのかとも思った。

そう考えると、資料1-1のグローバルキッズ神楽坂園の必要面積に対する確保面積が結構ぎりぎり、子ども達に必要な面積が圧迫されないか少し疑問に思った。

(事務局) ご指摘のとおり、ゼロ歳児、1歳児の必要面積は、1人当たり 3.3 平方メートル、それから2歳児以上で 1.98 平方メートルという基準になっている。

子どもに対する職員配置の基準が、子どもの年齢に応じて定められているので、それを満たせないことがあっては当然いけないし、保育士が確保できるかを考えて保育事業者が定員を設定している。

また、ロッカーや棚等を置く面積に関しては、基準面積に含めないことになっているので、ロッカーや棚等の面積を差し引いて、子どもが動けるスペースを保育室の面積としている。

(2) 待機児童解消に向けた取り組みについて

(事務局) 資料に基づき説明

(委員H) 保育定員の推移で、30年に7,475人の予定になっているが、待機児童の人数は30年頃に何人位を予想されているのか。

(事務局) 国からは、今29年度末に待機児童ゼロを求められている。子ども・子育て支援事業計画に基づき、人口推計等を見ながら、平成29年度末の待機児童ゼロを目指して施設整備を行っている。結果として30年4月1日には、計画上、待機児童はないと推計している。

(委員D) 待機児童ゼロは、家庭の保育がなくなることではないと思う。潜在的に働きたい母親は大勢いるし、増えれば増えるほど働ける環境が増えて、ゼロになることは余りないと思っているが、そのことに対してどのように考えているか伺いたい。

(事務局) 待機児童とは、認可保育園に入れたい方全員を指しているわけではなくて、例えば認証保育所に入所している方や育児休業中の方については、厚生労働省の定義では待機児童から除外している。

待機児童の定義については、自治体ごとに考え方が少し違っている部分があるので、現在、国が統一の定義を定めるため、検討会を開催している。今年中に国から待機児童の統一的

な定義が示される予定で、待機児童の状況がより明確になっていくと思う。

区も在宅で子育てしている方への支援として、専用室を使った一時保育の充実や、自宅や短時間の仕事をしている方のための定期利用保育を今後拡大していくなど、さまざまな方策により、子育て支援全体を充実させていくことを考えている。

(委員D) 一時保育や家庭で子育てされている方へのサポートも厚く考えていると伺って、今後もそういったことも話し合ってきたら、よりよい子育て会議になると思う。

(事務局) 他に在宅で子育てしている方への支援として、子ども総合センターでは、在宅で乳幼児の子育てをしている方が通いやすい親と子の広場や、乳幼児サークルのほか、0歳から18歳まで誰でも利用でき、またベビーカーを押して行ける児童館等の施設が区内20カ所ある。

また、単なる居場所としてだけではなく、子育て相談も気軽にできるような雰囲気づくりを心がけている。

その他、産後支援のサービスなどさまざまなサービスを組み合わせて、一人一人に必要な支援が届くように、網の目のような細かい支援を繰り広げていきたいと考えている。

(委員D) ただ預かればいいというものでもないと思うので、アートに触れるなど子どもの感性をどう育むか、多角的に話し合っていたきたいし、アンケートや座談会など現役の母親達の声を聞く機会を設けていただきたいと思う。

(委員B) 私の施設では1歳児からお預かりするが、1年間ゆっくり育休を取っても入りやすいからという理由で今回見学者が非常に多く来ている。2、3年前、1歳児からの保育園が多く整備され、家庭で子どもを1年間見ていると入れるなら、1歳児からの園でいいと思ったが、それ以降にそういう園ができないので、需要は前倒しなのだろうと思っている。そこはどうにかならないか。

(事務局) 保護者達の中で育児休業を前倒してゼロ歳から入らないと、1歳で保育園に入ることがなかなかできないという情報が、広がって、子どもを預かる年齢が低年齢化している。今年の4月1日で、新宿区の待機児童数は58名で、0歳児が32名、1歳児が26名である。育児休業を1年取り、1歳になった後に受け入れ先が確保されていることが理想的と思っているが、1歳児の需要を満たすだけの保育施設の確保はできていないのが現状である。

今、国が入所予約制度の導入について考え方を示しており、新宿区でもそうした国の提案を受けて、入所予約のためにどれぐらいの施設が確保できるのか、育児休業が1年で終了してから翌年の4月に認可園に入園するまでの間の子どもの受入先の確保という課題もあるので、今、区でもそうした研究を始めたところである。

(事務局) 事業者との協議に当たっては、0歳の内から早めに入園させようとする風潮がある中で、区としても、子どもと1年間向き合った後、1歳から保育施設を利用してもらおうという考えを持っていることは話している。また、0歳と1歳の定員に、差をつけて、なるべく1歳からでも入れるような定員にすることなどを協議している。

ただ、事業者も保育所の運営をしていかなければならず、低年齢児のほうが公定価格の単価は高いので、運営がある程度軌道に乗ってからでないと、0歳の定員をゼロに設定することはなかなか難しい。

区としては、例えば区有施設等を活用して私立認可保育所を公募していく時に賃料等を

安くする代わりに、1歳以上の定員設定について協議をさせていただいている。区としてもできる範囲で、事業者の負担にならないように考えている。

(会長) いろいろな取り組みをしながら、常に議論しながら話題にしていくということが大事なことなのではと思って伺っていた。

(3) 私立保育園の子ども園への移行について

(事務局) 資料に基づき説明

(委員C) 資料3 1の新宿せいが保育園で変更後の定員が2号認定30名に対して、1号認定が2名であるが、どのような理由で設定したのか、集団適応の問題とか、子どもの発達保証という点で、2名という人数をどう考えているのか、お聞きしたい。

(事務局) 法人からの提案を区が受け入れた形になるが、法人としては、今保育園に通っている子ども(2号認定)の定員はそのままにしつつ、1号認定の幼稚園機能を付加したいということで、必要な部屋の面積等を考えて、2名という数字が出ているのかと思う。

保育所型認定こども園も全部で7つあるが、例えば西落合子ども園は、保育園機能の部分が20名、幼稚園機能の部分が4名の設定になっており、定員については、面積などのさまざまな基準も加味しながら設定している。

(委員C) 区立こども園のように1号認定の子どもが4名～5名だと、ある程度の育ち合いみたいなものも考えられるが、保育の質と子どもの育ちの保証を考えると、2名でいいのかということは正直な意見として思っている。

(委員E) 今回の認定こども園への移行は、一体何のための移行なのか。

(事務局) せいが保育園からは、教育的なところも取り入れ1つの保育施設の中で子ども達を保育・教育を通じて育成していきたいとの思いが強かったと説明を伺っている。

(委員E) 待機児童解消のため保育園を開設し続け、10年後、15年後、頭打ちになった時に、新宿区としてはどうするのか、将来的な見通しを持っているのか。

今、保育事業者の中では、子ども園化が、生き残っていく1つの手立てという認識があるようだが、たった2名で幼児教育ということの是非はどうなのかと、個人的な見解を持っている。

(会長) 国全体として子ども園化という方向で動いていると思う。今日は、中教審の幼児教育部会があり、保育所保育指針も、幼保連携型認定こども園の教育保育要領も、幼稚園教育要領も同時に改定をし、幼児教育部分については全く同じ記述にし、なおかつ修了までに育てたいことを明確にしようという方向が確認された。今後、保育所の子ども達の生活の中での、いわゆる幼児教育の部分をどうするかという議論や、幼保連携型認定こども園についても保育所とは違う形で幼児教育部分をどのように保証していくかという議論が始まっていくと思う。

つまり、多様な子どもがいるということにきちんと目を向けていく、先程の例では2人の子どもの教育の部分をどのように保証していくのかということである。

同じ子ども園の中でも、1号認定と2号認定が半々のところもあれば、また、学校法人から認定こども園にした場合には、逆に2号認定が非常に極端に少ない場合もある。やはり多様な施設の中で、教育と保育の両方をどのように保障していくことが課題ではないかと思う。

幼稚園も預かり保育を充実しているので、長時間の保育を受ける子どももいるとなると、1日4時間の教育を学期ごとに受ける子どもとの差をどう埋めるかが課題になるので、いわゆる幼児教育については、それぞれの施設が抱える課題かと思っている。

だから、決して2名でいいというわけでもないし、半数ずつならば大丈夫という保証もない。一人一人の生活を保障していくこと、発達と学びを保障していくこと、そこをそれぞれの施設でどうつくるのかというのは課題と思っている。

(委員G) 私はフルタイムで働いており、次男が年少クラスにいて、長時間保育を受けている。多分、半分ぐらいの割合で短時間の子も一緒に保育を受けている。

最近次男が、ママ早く帰ってきてと言うので、何でかなと思ったが、3時に帰りの会をして、帰っていくお友達を見ていいなと思っているのだと思う。去年は全然言わなかったが、ここ1カ月位で突然言うようになったので、何となく親としてすごく寂しい気持ちになってしまう。

1号認定の子と2号認定の子と一緒に保育を受けることによって、子どもの中にそういう気持ちが生まれてくるし、親の中にもフルで働いていると、何となく後ろめたい気持ちをちらっと持ってしまう。それが100%悪いことだとは全く思わないし、私はむしろ働く姿を子どもに見せるという思いでいるが、子どもが悲しい気持ちをどのように消化していくのかすごく考えさせられるので、それが先ほどお話しにあった子どもの育ちの保障にもつながってくるのかと思っている。

(委員I) そういう思いをさせないことが私達の日々の保育で努力すべきことなので、お話を聞いて、ちょっと痛いなと思った。逆に、短時間で帰る子どもが、もっと遊びたい、誰ちゃん達はおやつを食べて、これからもっと遊べるのに帰りたくないということも時にはあるので、両方の立場があるのだろうと思っている。片方はお昼寝しなくちゃいけない子ども、逆に早く帰る子はお昼寝って何だろう、やってみたいというような未知の世界への魅力みたいなものがあると思う。

今まで幼稚園と保育園が分かれているときは全く知らなかったが、子ども園になったら、いろいろな生活のいろいろな子がいて、早く帰ってくるお母さんや、働いているお母さんもいるということが、割と小さなうちから子ども達の中に浸透していくことは、意味があることと思っている。

ただ、子ども達がそれに対してうらやましいなと思う気持ちがあり、それをしっかり保育士が受けとめて、そういうこともあるね、でもこういうことがあるという、いろいろな見方で、子ども達に楽しいと思わせるのが、保育者の質の問題であり、いろいろなものを全部受けとめて、それを安心感につなげていくまで、保護者の不安感などを全部保育士が受けとめて返していく、その受けとめる力をつけるための研修制度は、これから区としても整えてほしい。それは認証保育所にとっても同じだと思っている。

この間も、研修を実施する時に、地域の認証保育所全部に日時や講師、研修内容を伝えて、もし時間があったら来てくださいと声をかけたら、ある保育園から園長先生が2名の保育士を参加させてくれて、講師の話を一緒に聞き勉強していった。

地域の保育士の資質と一緒に育てていこうというのが区の方針なので、私達も、子ども達や保護者がそういう思いをしないように、楽しめるようにこれからも努めていく。

(事務局) 本日欠席の委員から、資料3、新宿せいが保育園の保育所型認定こども園への移行についての意見を1つ預かっているので、ここで紹介させていただきたいと思う。

ここに至る背景について説明を聞いていない中での意見ですという前書きがあり、「こちらの

せいが保育園はもともと120名程度で始まったところの保育園でしたけれども、学童クラブをなくして保育園の定員を拡充するという方向で今に至っているというふうに認識しています。」

今も少しすし詰め状態なのではないかと感じられるのに、さらに6名増やす計画について、無理はないのだろうかという質問である。特に現場の園長先生がもしそこに心配があるようだったら、自分としても子どもの福祉の観点から、反対の意見を述べさせてほしいという意見をいただいている。

(事務局) 当然すし詰めという状況は非常によくないが、あくまでも認可の配置基準を満たした中で各年齢2名ずつという新たな定員設定の提案を法人からいただき、面積等の基準を満たしていることを確認したので、提案させていただいた。

(委員J) せいが保育園は、昨年度だったか、地元の民生委員の強力な推薦で、子育て部会で見学に行かせていただいた。確かに子どもの数は多く、学校が終わった子ども達がかばんを持ったまま来て、勉強したり、工作したり、遊んだり、自分の好きなことを一生懸命している場所が少し狭いかなと思ったし、庭もそれほどないので、確かに狭いと思った。

(委員F) 小学校に接続するまでの間の子供達の豊かな成長や、発達というところを確保していくためにも、幼児期は大事だと思うが、今後、乳児の小規模な保育園から幼児のクラスへ上がっていく子供達の対策について、区としてどのようなビジョンを持っているのか、また、あわせて今回の定員増についてお聞かせいただきたい。

(事務局) 新宿区にも現在、保育ルームという保育施設があり、1歳から2歳までの子どもを受け入れている施設があるが、今ご指摘いただいたように、それ以降の保育の確保がまだ保証されていないということで、いわゆる、保育の継続性が非常に課題かと思っている。

私どもも3歳以降の受け入れ先をしっかりと確保しなければいけないと認識しており、受け皿の確保のため、保育ルーム等の近隣の区立、私立の保育園にいろいろと働きかけをしている。

連携施設の確保は、とにかく早急に解決しなければいけない問題であり、動いているところなので、具体的になった場合は、こちらの会議でもご提案をさせていただきたいと思っている。

(委員C) 今の0歳から2歳までの保育と、それ以降の連携として、私立幼稚園を活用した預かり保育等を使った長時間での教育活動であるとか、区立、私立問わず、幼稚園との連携については、区としてどのように推進しているのか。また、幼稚園も3歳以上の子ども達の預かり保育をかなり長時間実施していると思うが、そのあたりの現状を知っていただくことも必要なので、区と私立幼稚園の委員にお伺いできればと思う。

(事務局) 日頃から、子ども家庭部と教育委員会は、しっかりと連携しており、それぞれの管理職が集まって課題や情報を共有する会議も行っている。

幼稚園での預かり保育の制度については、区の窓口でも紹介をしっかりとさせていただき、保育、教育の中で多様な利用の方法があることを区民の方に情報提供している状況である。

(委員E) 私立幼稚園の預かり保育、私の園では18時半までやっているが、19時までやっている園もあり、一定のフルタイムの人のニーズも確かに拾えているかなと思っている。

保育園と幼稚園の連携がうまくいけば、待機児の解消にも一定の役割を果たすのではないかと考えている。

区立幼稚園の一部でも預かり保育をやっていたり、私立幼稚園ほぼ全園で長期休業期間も含め一定程度の預かり保育をやっており、うまく連携していくことで区の待機児の解消にも寄与するものと考えている。

(会長) 先ほどの幼保連携の問題についても、これからうまく進むといいと思うが、本当は保育園に5年間行きたかったけれども、0歳～2歳の小規模園から幼稚園に入り、幼稚園の預かり保育を利用してフルタイムで仕事は続けられるけれども、空きがあつたらすぐ移ってしまうという現状もある。幼保の園同士が、それぞれ対応していくこともすごく大事だが、それぞれの施設の目的があるので、区の方で施設の特色を伝えて、保護者が理解し納得して選べるような体制づくりが同時に必要なのかなと思う。

4 その他

(委員E) 新宿区では、3歳になって幼稚園を志向する方が多いように聞いており、保幼連携も割といろいろな形でやりやすい地域でもあるのではないかと考えている。

また、先程アンケートの話があつたが、私が出席している学校選択制度検討協議会で、大々的なアンケートをやっていた。子ども・子育て会議でも、どの地域にどんなニーズがあるのかわかるようにアンケートの実施などができたらいいのではないかと考えている。

(事務局) 5年毎になるが、次世代育成支援計画をつくる時に、就学前の子どもを持つ親、また、小学生を持つ親と、子どもの年齢に応じてどんな傾向が見られるのか調査をしている。今、委員からお尋ねがあつたような、幼稚園なのか、保育園なのか、3歳になったらどうなのかというような項目で細かく分析できるような調査は今のところしていないので、今後の研究テーマにさせていただけたらと思っている。

例えば保育園に在園している子どもの保護者に、3歳になったら幼稚園を選びますかという提案など、いろいろご意見いただけると、イメージが湧くので、ぜひお願いしたい。

(委員D) 数時間だけ働きたいが、幼稚園での4時間の預かり保育では、前後の移動時間を考えると、実質3時間しか働けない。特に都心に住んでいる母親はキャリア形成を断念して保活していたり、継続することが難しく家庭に入っている方も多く、いろいろな事情で幼稚園を選ぶ母親も私の周りに多い。私自身も第1子は幼稚園を選び、第2子は保育園を選んで、両方の面を知っているが、入れてみないとわからないこともあるので、詳細なアンケートはやはり必要であると思っている。それを踏まえた上で、新宿区が多様性に対応しているということが打ち出せるような提案ができるといいと感じた。

(委員F) 3歳になったから幼稚園を選ぶという方も確かにいると思うが、当園の今の保護者の状況からすると、短時間認定の方は非常に少なく、育休中の方のみである。仕事をしていて、幼稚園を選ぶ方は本当に1年に1人いるか、いないかという状況ではある。

いろいろな働き方があると思うので、保育園を選ぶ時に延長保育の時間や地域性なども加味していると思うが、それぞれの方達の事情も違ってくるのかなと思う。

(会長) 今通っている施設の中である程度預かって、教育も行ってもらいたい、保育園でも教育をしっかりと行ってもらいたい、それが認定こども園という形になってくるとは思うが、非常に多様な

生活の子ども達が集まってくる中で、やはり保育教育をしっかり実現していくには、それなりの質を担保する力を持たないといけない。数年前から比べれば、質を担保できるようになってはきているが、まだまだ課題は多く、それぞれの選んだ施設の中で両方を担保してほしいというのは、保護者の率直な意見なのかと思っている。

(委員C) 小規模園からの移行は非常に難しいが、解消する手段の1つとして、区立、私立問わずの幼稚園との連携だったので、教育内容や保育内容について十分に検討されるようになったと思うが、保護者からすると、0歳～2歳を終えて、次に行くところがなく幼稚園に行っただけでも、兄弟がいたら、保育園にも預け、幼稚園にも預けて、2カ所に行かなきゃいけない。

区でも調整していると思うが、例えばなるべく近い園で組み合わせるとか、兄弟であれば同じ保育園にするなど、0歳～2歳の小規模からの移行が難しい時には、子どもや家族のことを考えて、そういう仕組みづくりが必要で、それをどうするかをアイデアのある人に力を借りて展開できると、資源としての幼稚園も活用されるだろうと思う。

リソースの活用という点は考えていかなければいけないと思う。

(委員J) 新宿区民生委員は、都内で新宿区だけが、自主事業として、赤ちゃんの生まれた世帯を訪問して、親とできる限り面接をして、子どもが元気で育っているか、その家の状態はどうか、そのお母さんの精神状態はどうかなどを伺い、区の相談窓口を案内するため「すすく新宿っ子」という冊子を配付している。この冊子には日本語、英語、中国語、韓国語、4カ国語の情報を入れているが、複数の委員から、あと二、三カ国語を入れないと間に合わないとの意見が出た。本当に新宿は日本語だけではやっていけないような場所になりつつあるので、幼稚園、保育園にも、いろいろな国から来ている子どもは多くなると思うので、そういう努力もしていただきたいと思う。

(委員G) 江戸川区に住んでいる私の会社の友人から、その区では、0歳のうちは母親は子どもと一緒にいなさいという方針があり、1歳児からはほぼ希望する人は保育園に入れるが、0歳のうちから働きたい人は、認証保育所に月6万円ぐらい払って1年間入れて、1歳になってようやく認可保育園に入れたという話を聞いた。私は、早く職場復帰して認可保育園に入れたかったので、新宿区で良かったと思った。必ずしも皆1年育休をとりたいわけではないし、会社としても、途中から復職した人に何の仕事をお願いしようかとなると、ぴったり4月から保育園に入ってもらいたいと思う。

会社のニーズと本人のニーズが合わないと、これはまた困ったことになるし、子どもを持っている母親に本当はどうしたかったのかということについてアンケートを実施できると、新宿区独自の見解で、よりよい保育を目指していくことができるのではないかと思った。

(委員A) 反論になるが、保育園の運営で0歳児が一番コストがかかっている。0歳は、保育士も3対1の配置で、保育室面積も一番必要になるので、すごく乱暴な意見だが、0歳保育をやめて、その分のコストを1歳以上に充てれば、かなり待機児が解消できるのではないかと思う。

江戸川区では、確かに公立の保育園では0歳はやっていないが、3カ月で復帰したい方もいるし、1歳で入れるなら1年間育休を取りたい方もいると思う。どちらも選択できるようにして、例えば江戸川区では保育ママやベビーシッターのサービスなどが比較的充実していて、0歳のうちから働きたい方はそういうサービスを使って1歳から保育園に預けることができるので、1

つの案として、保育園は1歳からというのも今後検討してもいいのではないかと思います。

(副会長) 先程、認定こども園の子ども達の学びや気づきの話が出たが、こういう学びを子ども達ができるから認定こども園をつくったという子どもの育ちという文脈での話が、もっと行われなければいけないと思う。

ただ、待機児の問題も解消しなければいけないし、量も質も確保しなければならないし、途方もなく幅が広過ぎる。認定こども園でも、幼稚園でも、保育園でも保育という言葉が普通に使われ、幅広い言葉で保育ができているから、現実的に保育の質を議論しようとしたら、かなり刻んでいかないといけない。

特に、保育園がその刻み方を非常に細かくやらないとだめだと思う。園舎や園庭に十分なスペースがある保育園がある一方で、今日の資料の保育園は全て屋外遊技場は代替遊技場で、これが今当たり前になっている。そこでの子どもの経験内容とか、遊びの深まりとかと、フルスペックの園庭がある保育園の質と同じ土俵に並べて比べたところで、これは多分勝負にならない。優劣をつけるのではなくて、その狭いスペースでも上手な保育をしている園はいっぱいあるので、その土俵の中での出来、不出来を見ていくという視点もないと、話がなかなかまとまっていけないような気がする。

ただ、最終ゴールは、さっきの委員の話になるが、子どもにとっていいからこれですよというところに持っていかなくてはいけない。その過渡期としては今のある状態に乗った形で、このスペックの保育園の質はこう、あのスペックの保育園の質はこうというように細かい作業をやっていかないと、何か現実感が余り出てこないところもあるので、新宿区には何かそういう仕組みをつくっていただけると、初めの一步が踏み出せるのではないかという印象があった。

ただ、皆さんが会議の中で質が大事だということを様々な立場でご発言されている雰囲気は、すごくいいので、これを大事にした上で現実的な手立てを打っていくことが大事かなと今回は思った。

5 事務連絡

(事務局) 次回開催についての連絡

6 閉会